

## 静岡県の昆虫(13)

# アサギマダラ

清 邦彦



三重県で再捕獲された富士山(山梨県側)からの個体。  
Fujiのマークがある。

アサギマダラが海を越えて渡りをするのが分かってきたのは1980年代になってからである。それまでは、秋になると山地から低地に降りてくるくらいにしか考えられていなかった。ところが沖縄などの南西諸島では春と秋には多いのに夏になるとまったく姿を消すことから、海を越えての移動が考えられるようになり、鹿児島昆虫同好会を中心に、はねにしるしをつけて放すマーキング調査が行われるようになった。その結果、種子島で放したアサギマダラが福島県で見つかるという、予想をはるかに超えた長距離の移動をしていることが明らかとなった。

一方、愛知県の伊良湖岬には、秋になるとサシバなどの渡り鳥の渡りの観察に多くの野鳥観察者が訪れている。渡り鳥と一緒にチョウのアサギマダラも次々と海に出て行く事に気づいた静岡県の野鳥観察者の情報に、静岡昆虫同好会による調査が行われ、その移動のようすを確認するとともに、伊良湖で放したチョウが和歌山県で再捕獲されるという成果をあげた。やがて各地の自然史博物館などを中心にしてマーキング調査が盛んに行われるようになり、夏は山地でイケマという落葉性のガガイモ科の植物の葉を幼虫が食べて育ち、羽化した成虫は秋になると移動して低地や南西諸島などに達する。そこで幼虫がキジヨランやサクラランという常緑性の植物を食べて育ち、翌年羽化して成虫となり、春から初夏にかけて北の方向や山地に移動する。そんなことが分かってきた。

今ではインターネットの普及とともにマーキング調査はますます盛んになり、毎年数百例の移動が確認され、移動距離も2,000 kmを越えるものも出てきた。台湾との行き来も明らかになっている。しかし、チョウに方向が分かるのか、自力で飛んで行けるのか、まだまだ謎は多い。